

令和6年度 重点目標の成果と課題

◎ 重 点 目 標 1	(1)重点目標	自分で考え、判断し、表現する子を育てる。(豊かな知力)
	(2)数値による指標	「毎時間、自らの考えを表現しようとした。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3)成果と課題 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	○児童アンケートによる自己評価結果 「毎時間手を挙げて自分の考えを言おうとすることができた。」 ・・・達成率88% → 89% 【成果】学習用情報端末や思考ツールなどを活用し、児童が主体的に考えるための支援を行うことで、前年度より1%増加し、引き続き高い達成率を保つことができた。 【課題】主体的に自分の意見を発表する児童は、低学年では高いが高学年になるにつれて下がっている。自分の考えや意見をすすんで表現する場面を意図的に設定し、その姿を教師が価値付けていく授業を今後も継続していく。
重 点 目 標 2	(1)重点目標	自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる。(豊かな人間性)
	(2)数値による指標	「自分にはよいところがある。」「すすんであいさつをする。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3)成果と課題 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	○児童アンケートによる自己評価結果 「自分にはよいところがある。」・・・達成率94% → 94% 「主事さんや先生に先にあいさつをする。」・・・達成率89% → 83% 【成果】自己肯定感については、昨年度同様に高い達成率であった。挨拶については、6%減少した。代表委員会による「あいさつ運動」など、主体的に挨拶をしようとする活動ですすんで挨拶をしようとする児童が増えたことは成果である 【課題】教員だけでなく、主事や地域の方に対しても自分から挨拶することを、継続して指導していく。
重 点 目 標 3	(1)重点目標	健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる。(健やかな身体)
	(2)数値による指標	「目標をもち、すすんで運動した。」と自己評価できる児童の割合を 85%以上 にする。
	(3)成果と課題 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	○児童アンケートによる自己評価結果 「進んで外遊びをしている。」・・・達成率85% → 80% 【成果】今年度から「朝遊び」を復活させたり、体育委員会が「外遊び」企画を行ったりした結果、高い達成率を保つことができた。 【課題】より多くの児童がすすんで体を動かすよう、委員会活動を活用し、児童主体の新たな取り組みを実施していく。

令和7年度 重点目標の具現化のための方策

◎ 重 点 目 標 1	(1)重点目標	自分で考え、判断し、表現する子を育てる。(豊かな知力)
	(2)数値による指標	「自らの考えを表現しようとした。」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3)具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取組 ・評価・検証の方法等	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に自分の考えを発言するために、問題意識や相手意識をもたせ、自ら解決し改善しようとする活動の工夫が必要である。 <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用情報端末や思考ツールの継続的な活用 ・安心して発言できる学級集団の構築 <p>【評価・検証の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の自己評価カードやQ-U調査により、児童の意識や成果について評価・検証する。
重 点 目 標 2	(1)重点目標	自尊感情をもち、自他を大切にする子を育てる。(豊かな人間性)
	(2)数値による指標	「友達のためになることをしている」と自己評価できる児童の割合を 90%以上 にする。
	(3)具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取組 ・評価・検証の方法等	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校児童一人一人の自尊感情は高いが、友達を大切にすることについて十分ではない。 <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉についての指導の徹底 ・児童の長所やよい行動に対する、教師の積極的な価値付け <p>【評価・検証の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の自己評価カードや、「ふれあい月間」の学校生活アンケートを通して検証する。
重 点 目 標 3	(1)重点目標	健康・安全を意識し、すすんで体を鍛える子を育てる。(健やかな身体)
	(2)数値による指標	「目標をもち、すすんで運動した。」と自己評価できる児童の割合を 85%以上 にする。
	(3)具現化のための方策 ・背景 ・具体的な取組 ・評価・検証の方法等	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に運動に親しむ児童と、そうでない児童に二極化が見られる。 <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝遊び(7:50～8:10)の実施による体力向上への動機付け ・委員会活動を中心に児童が新しい遊びを知る様々な企画の実施 <p>【評価・検証の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストや縄跳びカード等の結果から、自分の成長や体力の向上を実感させる。